

## 男女共同参画推進委員会で寄せられた意見と本町の考え方

委員氏名	意見	回答	計画への反映
藤井美佐子委員	男女共同参画の結果というものはどのようなことであるか、計画を進めていく中で目標とする成果や結果というものはあるか。	男女共同参画社会の形成に関する推進状況や、女性活躍推進法に関する推進状況など国や町など自治体の設定する目標があり、いずれも国の男女共同参画局や町のHP等で公表している。男女共同参画社会の実現は、計画の基本理念として掲げたものであり、数値目標は一つの指標としてとらえ基本方針と基本的施策を総合的に推進していきます。	ご意見として頂きました
	男は外で働き女は家事をして当たり前といった考え方にに対し、どうやって男女共同参画の理念を伝えていくのが難しい点もある。町民皆さんが理解できるように、町の行政も働きかけていく必要があり、商工会であったり、農協、病院、学校や保育園であったり、そして各家庭が取り組むことで町全体が変わっていく。	家庭での男女共同参画の推進は、基本方針Ⅲの家事、子育てへの男性の参画促進として、広報しらかわ等での話題提供や関連講座の開催を実施します。また、男女が共に働きやすい環境整備では、基本方針Ⅱの男性優位の処遇改善で行政の取り組みはもちろんのこと商工会や町内事業者への普及・啓発に取り組みます。	ご意見として頂きました
大脇ちさと委員	男女共同参画社会はどこを目指すのかを考えたところ、SDGsの中で誰も取り残さないというメッセージがある。ジェンダーだけでなく障がいの方も高齢者の方も子供も、世界中の貧困も富裕層も含めて誰も取り残さないというメッセージが一つのゴールである。	日本を含め国連に加盟する世界193か国が目指す「持続可能な開発目標(SDGs)17のうち『5 ジェンダー平等を実現しよう』を当町として具現するため、本計画に位置付けることとし、ほかのSDGsに繋がるものも含めて、各推進項目ごとに明記します。	計画にSDGs項目を加えました
額瀬慶子委員	自由社会の象徴が性別に偏ることない男女平等であるが、一つの例として夫婦別姓という選択は、まだまだ地方の偏見が強く受け入れることが難しいように感じらる。また、性別によって社会的不利益が生じない社会を築いていくことも重要である。	本計画は、家庭・地域社会・職場などあらゆる場面で、男女共同参画についてそれぞれの立場から町民みんなで共有し、考え、責任を持って行動することで、ともに創り上げる社会を目指しています。	ご意見として頂きました
鈴村由美子委員	教育の場でも、幼少期から意識づくりを実行していくことはとても大切だと実感した。働く母親が増えている中で、私も仕事をするが、パートナーや家族の協力なしには成り立たないと感じている。育児や家事はお金にならないというイメージがあるが、実際はお金には代えられない大事な価値を持つ仕事なので、こうしたことを男性の方や子供たちに知ってもらえる取り組みが進むと良い。	幼少期からの意識づくりについては、基本方針Ⅰの男女共同参画の理解の推進として教育・学習の充実を図ります。教育活動・学校(園)運営における男女共同参画の推進から、あらゆる世代の男女が生涯にわたりそれぞれのライフスタイルに合わせた学習機会を提供します。また、美濃加茂市を中心とした定住自立圏域の連携を深め広域的に活動を推進します。	ご意見として頂きました
	町内で受けられる放課後の学童保育など地区ごとで受けられるサービスにばらつきがあると感じていて、子どもも少なくなり小中学校の統合が段階的に進んでいく中で、女性も社会で活躍していくためには社会全体で子育てや教育を支える仕組みが必要である。	多様なニーズに対応した保育サービスの充実は、一時預かり保育や延長保育、放課後児童クラブをはじめとする保育サービスを充実・実施します。地域住民がお互いに子育て・教育を助け合い、地域全体で支える意識の浸透を今まで以上に進めます。	ご意見として頂きました

委員氏名	意見	回答	計画への反映
藤井美佐子委員	介護の観点から、ご両親が高齢になり介護が必要になってきた場合に、家族で介護ができなく施設に預ける状況が多くみられる。ご本人も在宅を希望しても、家族は仕事で介護できる人がいない。生まれ育った、あるいは嫁いできた町で最期を迎えてもらいたいという気持ちが仕事柄理解できる。社会全体でこのような問題を支えるように、ヘルパーやデイサービスなどの介護サービスの充実が必要である。	子育てや介護を女性だけが担うのではなく、男性も平等に担わなければならないことを社会全体が支えるため、介護支援体制の充実や職場における仕事と家庭の両立支援を行います。介護保険サービスの充実と情報提供や相談体制の充実により介護負担の軽減を図ります。また、育児・介護休暇等の取得推進を図ります。	ご意見として頂きました
山中剛彦委員	LGBTQといった認識がテレビや新聞、インターネット等を通じて知られるようになったのはここ最近のような記憶で、私が子育てをしていた時代はそのような言葉は無かったように記憶している。こうした認識が世代を超えて広がるためには、今後教育の場であり、行政の広報であったりと継続的な周知が重要である。	基本方針Ⅲの共生の心に満ちたあったかいまちづくりを進める方向性として社会的支援に関わる環境の整備と充実を行う必要があります。LGBTQ、SOGI等に配慮した取り組みとして、性の多様性に配慮した公文書の作成や正しい知識の意識啓発に努め、広報しらかわ等での話題提供を行います。また、教育に場においては、総合的な学習でSGDsに関連した学びの場などを検討します。	ご意見として頂きました
	消防団活動で昨今の災害出動では、火災の他にも河川の増水や行方不明者の捜索など、地域防災の要である消防団員への負担が増えている。地域によっては、消防団員の入団員の減少や現役の高齢化など、マンパワーが不足している状況の中で、女性のお力を借りる状況も今後増えてくる。	防災活動における女性の参画の推進は、男女が協力して防災活動が出来る体制づくりに努めます。また、避難時、避難所における女性をはじめとする人権への配慮についても男女共同参画の視点を取り入れた避難支援体制、避難所開設に努めます。	ご意見として頂きました
藤井保明委員	女性が家庭と決めつけるものではなく、パートナーとのコミュニケーションや対話などから仕事や責任を分かち合うことが必要である。	家庭での男女共同参画の推進は、基本方針Ⅲの家事、子育てへの男性の参画促進として、広報しらかわ等での話題提供や関連講座の開催を実施します。	ご意見として頂きました
熊崎ゆり子委員	男女共同参画推進委員の通知を頂き、計画案を見させていただいた第1印象は「難しそう」でした。若者は、徐々に男女共同参画社会を理解していますが、高齢の方は、力仕事は男性で手先仕事は女性と分担しながら野菜を届けていただく姿を目にして、支え合って相手に感謝しながら生きていくことに心から感心しました。野菜村チャオでの仕事柄、映画HISの聖地であることからLGBTQと思われる方をよく目にいたしますが、世の中は常に変化しているということを感じた出来事でした。	男女共同参画社会の理解を進めるため、広報しらかわなどによる啓発活動・情報提供を行い、町民みんなで共有し、考え、責任を持って行動しともに創り支える男女共同参画社会の実現をめざします。また、LGBTQ、SOGI等に配慮した取り組みなど世の中の変化にきめ細かく対応していきます。	ご意見として頂きました